

禮は天地の常にして即ち人の作法なり禮なければ人間の作法に非ず禽獸に同じ萬事に筋目亂れて行はれず又安からず故に小兒の時より和禮の法に従ひて立居振舞飲食酒茶の禮拜禮及び父兄君長に事ふる禮儀作法を教ふべし

9、幼きより書數を習はしめ武士の子には其際に於て弓馬劍戟拳法等を習はしむべし
10、動物を憐れめ

小兒をいまして種々の蟲魚等凡そ人間の害ならざる動物を殺し又は苦しみ犬猫鷄鴨等をなやますべからず亂りに殺生するは天道に背く事を幼少より早く教へましむべし

(和俗童子訓 總論上)

裁縫に關する所感

技藝科一部四年

春 木 さ い

山 井 ワ イ

松 野 初 枝

藤 田 い ん

現在裁縫教師が實際社會からどんな眼で見られて居るか又學校に於ける裁縫科がどれだけの要求

を以て迎へられて居るかと言ふ様なことを豫め考へて置くことも全くの無駄ではなからうと存じます。而しか様なことは只机の上ばかりで考へたのでは十分分らないので實際社會に出て社會の叫びも聞き社會の潮流にも入つて見なければ其真相は分らないのでございます。然るに私共は實際社會の事に極めてうとく其上まことは短時日の思ひつきでございましたので實際についてくはしくしらべることも又聞く機會も十分ございませんでした。それで只私共が日常心づいた事又他から伺つた事の一つ二つを述べて見やうと存じます。したがつて今私が申さうとする様な事項は皆様も十分に御承知の事でございますから此研究會の席で申上ぐる價值はなからうと存じますがしばらくの間御許し下さいませ。

裁縫は昔から一家の一大仕事として非常に重んぜられ如何なる階級の女子でも皆女の大切な仕事として第一に置いて居たのでございます。昔ばかりでなく今日でも我國の經濟狀態からまた習慣の上から見まして大切な仕事でございまして一部の人を除いて多くは裁縫の必要を認めて居るのでございます。けれ共之等の多くは只實用的方面のみ要求するので學校に於ける裁縫科を恰も一つの職業であるかの様に考へ教師に對しても生徒に對しても職人に對すると同様の要求を持つて居るのでございます。従つて裁縫の教育的價値の如きはほとんど念頭にないと言われてもよい位ださうでございます。一般社會の人がか様な考へを持つて居るばかりでなく教育者間に於てす

らか様に考へる人があるのであります。それで學校に於て裁縫科が他の教科とならば課せられましても裁縫ばかりは一段と低く見られ甚しきに到つては全く別物の様に見られるのでございます。何故にか様に考へられるのであるかと申しますとつまりは裁縫科の本當の意味を解さない所から來るのぢやあるまいかと思ひます。學校で授ける裁縫は裁縫の職人を作る爲の目的ではありませぬので只裁縫に關する一通りの知識技能をあたへかねて節約とか利用とか又綿密着實眞面目とかの習慣を養ふものでございます。勿論裁縫は實用的の學科目でございますから業の功妙も實用的であることも願ふ所でございますがそのみが裁縫の生命ではございません。學校に於ては寧ろ精神的陶冶に重きを置かなくてはならないと存じます。したがつて裁縫の教師は業だけが出來たのでは完全と言ふことが出來ないので業に伴ふ能力と立派なる人格とが備はつて居なければなりません。所が從來裁縫の教師としてはそんな立派な人はまれで多くは實用的方面にのみ走り教育者としてはいかゞはしい様な教師が間に合せに入つて居たと云ふこと等も裁縫科をして低く見らるゝ様になつた一つの原因であらうと存じます。尙頭の仕事は高尙だが手でする仕事はつまらなうと言つた様な考へが一般の人の頭に習慣的に入つて居たせいでもございませう。そこでか様な誤つた考へをまた習慣を根本的に打破して裁縫の眞の意義を一般の人の頭に明らかならしめやうとするには今後裁縫の教授にたづさはるべき吾々が餘程の努力と覺悟とを致さねばなりません。

尙此外に世の一二の非難について其原因を考へて見やうと存じます。これまで裁縫の教師と申しますと小數の例外はございますが多くは女子でございまして一般男女の干渉の及ばないものとなつて居ります。したがつて裁縫科の大部分の責任は女教師にあると考へなければなりません。所が或一部の人は「裁縫が割合に進歩發達しないのは之は全く女教師まかせであつて男女の助力がないからである男女もよろしく裁縫を研究してお手傳をしてやらねばならない」と之は一面非常に親切の様でございますが又一面女教師を侮辱した話の様な思はれるのでございます。勿論男教師と雖裁縫の意義を理解し所謂治外法權の態度を取らないで之が進歩發達に便宜をあたへ間接にはお手傳もして下さらなくてはならないのであります。私は前の言葉がか様な意味で言はれたのでありたいと思ふのでございますがまた聞きやうによつては侮辱したとも考へられるのでございます。男女のすることだから進歩することだから進歩しないとは一概に言はれないと思ふのでございます。多少さ様な傾向はあるかも知りませんがそれは要するに努力の問題だと思ひます。殊に裁縫科の如きはすべてに細心の注意の拂はれるやさしい女子に最も適した學科目でございますからこれはどうしても女教師でなくては分らない事でございますまして女子と裁縫とはどこまでもはなるべからざるの關係を持つて居るのでございます。そこで裁縫を教ゆる教師は専門家の堪能は望まずとも相當の技術と之に伴ふ理屈とが分つて居なけ

ればなりません。徒らに不徹底なるむづかしい講義ばかりして實際が出来なければ役に立ちませんが又實際ばかりが出来ても理屈が分つて居なければ應用がきゝません。即眞の理屈は實際によりて證明され立派なる製作は偶然に出来るものではありません。必ず充實したる内容を持つて居なければなりません。要するに裁縫教師は實際と理論と相まつてしつかりとした自信のある腕前を持つて各々地方に臨み其地方の民度と要求に應ずる教授をしなければならぬ。かくすれば家庭もよろこび勢教師の要求にも容易に應ずるでございませうしまた生徒の進歩も早からうと存じます。

又よく聞く比難は「とかく女子は研究心が足りない」と或はさうかも分りません。從來長い間の習慣として女子は男子の様に獨立的能力のないものと思つて居たものが少くありません。而し乍ら女子の本領はどこまでも女子が之を處理して行かなくてはならない事は當然の事であります。他の學科目に對しても此獨立的努力が必要でございしますが裁縫の如きは特に此心して日夜研究を重ねなくてはなりません。一体眞に研究しやうとする者は第一之に興味を持ち今日はまだよい今は面倒くさい何時々々しやうと言ふ様な呑氣な氣分でなく其時其折に於て着々其歩を進むべきだと思ひます。常に此心が頭から去りませんでしたらば自然自分の着眼點も確實になります興味も湧いて来るものでございます。故に私共はどこまでも此研究的態度を失はない様に致したいと存じます。

ます。

それから今一つか様な技術の事になりますと色々之に對する流儀を立てるものでございます。此流儀も立てなくてはならないものもたくさんございませう。而し裁縫に於ては決して何々流某流と大聲で言ふべきものではございません。勿論裁縫の教師が百人が百人ながら同一方法を取ると言ふことは出来ないそれぞれちがつた所がありませう、けれ共異ふからと言つて「私の流儀はか様な様」とがんばつて少し自分とちがつたやり方をする人と一所に居て打合せ會等する場合どうも心からの折合がつきにくくつて相携へて進むことがむづかしい所謂流儀がまゝあるさうでございませう。か様なことはまことに情ない話でこんなせまい考へを持つて居てはどこまで行つても自己本位でございませうから進歩發達の仕様がないのであります。自分の持つて居る方法のみが必ずしも唯一のものではありません、他に之より數等よい方法があるかも知れないちがつた方法に接した時こそ之は自分に研究のよい財料をあたへて下すつたのだと思つて感謝こそすれ何等惡感情を持つ理由はないのであります。さ様な場合にはよくしらべ如何にも之はよい方法だと思つたならば之に従ひませうし、矢張り自分の方法の方が都合がよいと思つてもまあ他にもか様な方法があるのだから知つて置きませうと言ふ様にして決して頭から退くべきものではないと存じます

一体教育の仕事は教師本位でなく生徒が本位なのでございますから教師自身の感情とかまた我ま

によつて自由にすることは出来ないことを忘れてはなりません。若し前の様なせまい考へを持つて居る教師があつたならば其爲に生徒の受ける迷惑はどれ程とも分りません。只に裁縫其もの進歩を害するばかりでなく生徒の精神上に色々面白くない影響を及ぼす様になるのでございます。か様な教師は裁縫界の大敵且つは教育界の悪魔としてよろしく排斥すべきでございます。要するに裁縫科については大体前の様な傾向があるのでございますから裁縫教師はよく裁縫の眞の意義を理解し頭もあり腕もたしかにみがいた上に立派なる人格を根本として従來の様々の誤解批難を一掃すると共にますく此の道の進歩發達をはかりたいと存じます。

私が只今申上げ様といたしますのは前の方の續きで亙いまして裁縫の必要といふことについてでございますが多少其の方と重複するところがあるかも知れませんがお許し下さいませ。

日進月歩の世の中に於て日本婦人の家庭に於ける仕事は何であらうか子女の教育もするでせう姑にも仕へるでせう掃除もあるでせうけれども裁縫することも其重なる仕事の一つではありますまいかこれは昔からの習慣ですから今すぐに改めると子様ならばむづかしいかも知れませんが女子の學校といへば時間數に於て最も大を占めて居るものは裁縫であります夫の話を聞いても何だかわからぬ時局のことを話してもまた同様であるといふ婦人が家政の寸時をさいて被縫したとて何になるでしょうそれよりも讀書に費してしつかり頭をねつたらなど申される方がないでもありま

せん最もこれにも一理はありませうが裁縫と經濟との間非常に大關係のあることを忘れてはなりません。

西洋の様に一般に經濟上豊かなところにおきまして殊に洋服の如く其仕立方のむづかしいものに至りましては仕立屋まかせにすることも已むを得ないでせうが現今の我國の如く國債幾十億といふ今日に於まして衣服の仕立方を悉く仕立屋に出すといはしましたら何うで亙いませう一家六人の家族といはしまして各々が夏着五枚を有つて居るといはしましたせうか一枚の仕立賃二十五錢と見て四十枚が十圓けれども冬物もなければなりませんそれで衿と綿入と合せて一人につきこれも五枚といはしましたせうか一枚の仕立賃五十錢と見て三十圓何と莫大なお金ではありませんか單にそれのみではありません仕立屋に出しますれば外見さへ立派で早く仕立上げさへすればといふ考から布の生命などいふことについては極めて不親切で亙います鏝でのばせばすみずみものを銕を入れまじたり小さな篋で十分で亙いますのに通し篋をいたしましたり縫ひ込んで置けば次に縫代ます際に非常に便利でありますものをむやみに切つたりいたします。

私が何日か友達を訪問いたしました時「この着物は仕立屋に出したのでしたが今縫代へ様とすれば大きなへらのあとが大事な胸の所に出て困つたと」こぼして居られました然るに家庭でいたしましたら何うでございませう布の保存上一大注意をいたしますから非常な經濟となります第一前

に述べました様にむやみに切つたり通し篋をする様なことはいたしませんしました布の破れぬ中に縫代ますから従つていつまでも用ふることが出来ます。

八十位のおばあさんが「これは私の嫁入の時持つて来たものです」などいはるゝ着物の案外損じま
せんのも一枚の着物を兄弟四五人も着ることの出来るといふ様なことも偶然ではありませんまた
衣服のすべてを仕立屋に出すといたしますとあまり粗末なものは頼むことが出来ませんから従つ
て下女にやるとか貧民にでもやるとか處分いたさねばなりません。が家庭で裁縫が出来ますればい
ろいろ工夫をいたしまして破れた布も見違はるほど立派にして用ふることが出来ます。

吾國の時勢が一變いたしまして悉く洋服を用ふるといふ様な状態になれば外國の様に専門家まか
せにすることも已むを得ないことゝ存じますが只今の處急に和服全廢論といふ様なことは勃興し
そうにもありません。矢張日本婦人と生れました以上何うしても裁縫の心掛けがなければなりません。と
ひ自ら手を下してなす必要のない婦人もありまして自分の着物の寸法までを人にきく様
では主婦としての價値がありません。

勿論一般の人に對しましてかの専門的の知識とか技能とかを要求する必要はありません。たゞ一通
のものが縫れば結構でございます。また人々には其容貌の異なる様に體の格恰もちがふものであり
ますからよく其人の體に合ふ様に縫はなければなりません。然るに一家の主婦にして少しも裁縫の

心得がふいけませんでしたら太つた小供に胸のあく様な狭い着物を着せましたり瘦せた小供に袋の
様な衣服を着せないとも限りません。従つて主婦たる人の人格までがうたがはれます。ある人は小
供及び主人などの服装を見て其家の主婦の人物がわかると申して居りますが眞實かと存じますま
た獨人ドクトルスプリングルと云ふ人は次の様なことを申して居らるゝ。それでございます。

『女子に對し裁縫の貴きは其實用上の價値よりはむしろ女子をして健全なる家庭の中心たらしめ
火化の要因たらしむる理想的の價値を有するからである。衣服はその他の清潔整頓家の中の愉快な
ること及び子女のよく行はるゝことさへも一家の主婦たるものの裁縫の業に關係すること少くな
い上流婦人たりとも此責任を他人の肩にかけ得ざる筈のものである云々』と。

それから節約利用の精神即ち他日人の妻たる母たる人が直接家政の任にあたります上に非常に大
切な心掛とでも申ませうかこれも亦裁縫によつて養はるゝ事が少くありません。故に女兒及下婢な
どに裁縫せしめます際に於きまして十分注意をいたしまして糸の一筋小切の一片たりとも粗末
にせぬ様仕末せしめることが肝要であらうと存じます。節約利用は單に物的方面のみではありません
ん時間に於てもまた同様であります。

一體西洋人ことに獨乙婦人の勤勉で且つ時間の觀念に強いといふことは誰しも認むるところで
ませう人と話す時でさへも手袋を編むとか靴下をあむとかまたはシャツツボンなどの補綴を

なすなど少しの時間たりともむなしくしないといふことは新聞雜誌又は實際に彼の國情に通ずる方の報せらるゝところでございます日本婦人も繁雜な家庭に於きまして決て怠つて居ることは思ひませんが少し時間といふ觀念を明にして經濟的に使用せねばなりません。

我々日本婦人たるものはつとめて讀書もせねばなりません世の中の進歩は一刻も猶餘いたしません殊に將來世界の日本として他の列強國の間に立つて行くべき第二の國民を養成する婦人でございますから世の趨勢に従ふだけの覺悟はなければなりません裁縫調理にのみ没頭するいはゆる高等下女ではいたしかたがありませんが我國の今日ことに貧強國の名ある今日に於きましてせめて仕立賃なりとも節する様心掛ねばなりません。

家庭に於ける裁縫の必要は單に經濟的方面のみではムいせん精神上千金を費しても購ひがたき眞價を發見いたします何によらず左様であらうと存じますが客によばれて行つたと假定いたしましたようか前には山海の珍珠が並べられましても悉く料理屋の手によつてなりましたものでございましたなら美味いものは美味いとしかとれませんけれどもたとひ山海の珍珠はなく一汁一菜でムいまして主婦自らが手を下したまたは其指揮の下に出來上りましたものでムいましたなら食物の味以外に何物かの存在を感せずには居られません。

衣服も亦同様でムいませう皆様も御經驗がございませうがよく幼ない時分には新らしい衣服でも

着るとすぐお友達から『どなたがお縫ひになりました』といふ意味のことをたづねられますと私の

お母様とかお姉様とかと得意になつて答へたものでムいます勿論そこには新調の衣服といふうれしさもありませうがお母様とかお姉様とかといふ誇りもたしかにあることと存じます。

まして嫁たる人が一針ごとに誠心誠意をこめて縫ひましたといはれて着る舅姑の心地は何んなでせういかにむつかしい心でも其やさしい温情には自ら動かされまして報ゆるに笑顔を以てするといふ様になります従つて一家の平和を來す所以であらうかと存じます斯様に何れの方面から見ましても一通の裁縫を心得て居るといふことは大切でありますまして將來裁縫の報知として立つて行くべき私共は益々研究いたしまして斯道の發達をはからねばなりません。

美術上に現はれたる月

披二の四 水 民 年

望 月 つ 杉 本 ふ み

月といふものが藝術上に非常に多く現はされておりますことは、古今東西の、史上に於て見る所でありますか、此の月が美術上、殊に東洋美術の上に如何に現はされておるか、尙親しくこれ